デー2022」が開催さ

大学創立100周

目)ら運営メンバ 笹尾さん(左から2-

奏を楽しんだ 大勢の観衆が演

第 63 上智· Ш 大学総合対抗運動 オープニングを盛り上げ 競技大会

0年の第1回大会以来、 れた。上南戦は、196 から3日にかけて開催さ を主会場として7月1日 毎年開催されている伝統 大学総合対抗運動競技大 第63回上智大学・南山 一によるエール交換などで ぶりの開催となった。 一のスポーツ対抗戦。 年、昨年とコロナ禍の影 われ、校歌斉唱や応援団 っていたが、今年は3年 響で2年連続の中止とな 大会初日は開会式が行 昨

一硬式野球の試合を実施。 5勝2敗で本学がリード た。この日は、ハンドボ 前哨戦を合わせた成績は 2日目は9勝9敗、 ル、アイスホッケー 最

一た。各試合の結果は上南 学の総合優勝で幕を閉じ 学が追い上げを見せた 終日は3勝4敗と南山大 注目を集めた大会は、本 本学が接戦を制した。 総合成績17勝15敗で を図る目的で行われた。

学生による講演会「大

|を制し、8大会ぶりの勝 利をストレート勝ちで飾

各セットにおいて大接戦

った。

ない上南戦」として、 系の課外活動団体が交流 2022」と題したイベン トも開催された。このイ ortsfesta.jp http://www.johnan-sp ⊺Johnan Meets EXPO え、学長賞と特別賞が発 ▼女子バレーボール部: 4連覇に勢いをつけた。 共に勝利を収め、本学の 南戦前哨戦初戦にて男女 ▼弓道部:3年ぶりの上 賞理由は次のとおり 表された。受賞団体・受 上南戦での活躍を称

戦ウェブサイトに掲載さ|を深めた。

東京・愛知の魅 の所在地である ▼上智大学放送研究会 も負けずに、献身的に各 ▼応援団:猛暑・雷雨に 部を応援し、本学を総合 上南戦特別賞

ライト映像を撮影・上映 (SBC): 各競技のハイ 大会全体を盛り上げ

れ、互いに親睦 同士による交流 企画などが催さ 大学の類似団体

智 大 学 通

力強いエールを送る応援団

少林寺拳法部による堂々の演武

熱戦を繰り広げた女子卓球部

ラグビー部は大差で勝利

年の2013年に記念企

生に日本の伝統的な文化 体 nexnect。

を体験してもらうこと

回を重ねてきたが、

ぶりの開催となった。

ために中止。今回は3年

学の活性化を目的として 交流することを通して大

ールス感染症拡大防止の

21年は新型コロナウ

や運営を行う課外活動団

前回参加者数の2倍を超

当日は天候に恵まれ、

王催はイベントの企画







更衣室も用意。着付け動 数カ所の着付け部屋を設 が色とりどりの浴衣姿で える約4000人の学生 け、ジェンダーフリー ホフマン・ホール、 図



日本文化体験企画 は留学生にも好評

> ポイントが設けられ、 和室では、前日の7日に 験として実施された。 は書道、8日当日は茶道 た。ホフマン・ホールの で短冊を笹に飾ってい 設置。多くの学生が笑顔 催で、複数の言語で短冊 インストリートでうちわ 撮り合う姿が見られた。 6号館1階では、 4日から8日まではメ とてもうれしいです。来 あり不安な点も多かった ぶりの開催ということも 代表の笹尾直人さん(国 じ時期に行われた6号館 楽しんでいただける浴衣 上がった浴衣デーとなり 年よりたくさんの方々に のですが、 教3)は、「今年は3年 リティー!」も、 前広場でのピアノ演奏 参加いただき、 年以降も、 「響かせろ!ピアノチャ 上智浴衣デー2022 に花を添えた。 結果的には例

5日間で延べ約300人が参加

教育センター主催イベン の昼休みに、 留学プログラムを知ろう 6月27日から7月4日 グローバル ら、大学が提供する留学 プログラムを理解しても 進んできていることか により渡航留学の再開が

らうことを目的とした。 して、対面・オンライン を含め延べ約300人の ージョンが前提と

|パスウェイズ」に参画 し、8人のウクライナ人 日本での新たな挑戦に期 |リティ側になった経験は|か」などの質問が終了間 一正男会長、アンジ び英語による学位 語の不自由さなど 社会で活躍する上 国際教養学部長 取得プ 、およ ェラ・ユ マイノ い夢を語った。「ウクラ こと、これから実現した イナと日本をつなぐ仕事

|日本・ウクライナ教育||学生対象の短期プログラ 受講している。 のもと、はじめに曄 す」と歓迎の言葉を アミリーの一員で 哲朗グローバル化推 ムや日本語の授業を 道佳明学長が「皆さ んはもうソフィアフ セレモニーは森下 担当副学長の司会 楽四重奏を披露し

に美しいハーモニ

歳

の上智大学管弦楽

団が弦 動団体

そして、課外活

|学習に取り組む姿勢がう|5年同特別契約教授、09 生もおり、熱心に する学生が多く、 はすべて日本語で話す学 た。自己紹介を日 きわたった。 人一人スピーチ を行っ |8人が| 1日本語 | 教授、89年同教授、200 |本語で | 上智大学大学院神学研究 なかに 年神学部特別契約教授:

留学経験者を囲んでの座談会 進めるきっかけとな 学生が参加し について情報 収集を を激励した。 |必ず役立つ」と学生たち |際まで飛び交った。

期間中は6号館1階で

当副学長が挨拶。 グローバル化 め、積極的に 機会を活用さ な留学プログラムが 初日に、森 するた

| ル教育センター長は「ダ | 年次に留学した場合、就 ほしい」と話した。続い |集して万全な準備をして| 航またはオンラインで参 イバーシティ&インクル | 職活動はどのように進め ある。 貴重な留学の | 動』 」 などを日替わりで 上智大学には多様 | 備』 」「キャリアセンタ しなった ローバ |で、||| の感染症対策など、リス| い関心を持っていること 情報収 |夕管理はどうしていた|がうかがえた」と話して 問できる座談会では「3 海外短期プログラムに渡 明かし、今自分がすべき 後も多くの参加者が会場 ライナでの経験や心境を | られた。 セレモニー終了 た。そして、自身のウク|らは惜しみない拍手が送 と感謝の気持ちを伝え ていたのか」「留学先で 加した先輩たちに直接質 実施。また、交換留学や 習アドバイザーによる 学カウンセラー・英語学 えて学び続けられる喜び 度説明会(全般)」「留 『今からできる留学準 プログラムは「留学制 による『留学と就職活 いる。 に残り、留学生との歓談 |に就きたい」と力強く語 も多くの学生が留学に高 となった。コロナ禍なら |介に加え、留学体験談や る留学生たちに、会場か れ、このような状況下で を知ってもらう良い機会 | ちの出身校紹介などのポ 本学で学ぶ交換留学生た |ポスター展示も実施。多 まざまな留学プログラム める姿が見られた。 |かかる学生たちが足を止 スターが展示され、通り ではの質問も多数寄せら 育センターは「大学のさ 様な留学プログラムの紹 主催したグローバル教

て、出口真紀子グ

挨拶し 宗正孝名誉教授逝去

を楽しんだ。

丸山英樹教授が

ログラムSPSF

主任の

|ェイズ・ジャパンによる|日し、7月から外国人留

学生たちは6月下旬に来

モニーが開催された。本 学は一般社団法人パスウ

人留学生を歓迎するセレ

7月21日、ウクライナ

全のため 日、心不 | 生寮舎監長、8年4月~ 死去。 82 7 月 22 89年3月総務担当理事、 95年4月~2001年3 10年から本学名誉教授。 73年10月~78年3月学

| 年東京大学大学院人文研 1940年生まれ。69 月図書館長などを務め 著書に『日本倫理思想

|科修士課程修了。73年本 | 究科修士課程修了、72年 | 史研究』(共著、ペリカ 学文学部講師、79年同助 ど。専門は日本倫理思想 ン社)、『宗教のこころ』 (共著、平河出版社)な 『多神と一神との邂逅』 (共著、みくに書房)、

いる。

皆さんにより 6月に来日した8人の留学生